

読書コーナー

ユダヤ人大富豪の教え

著者：本田 健
出版：だいわ文庫

本書は、私が社会人初年度に当時の上司からおすすめされて出会った思い出の書籍です。ある意味、私の仕事に対しての考え方を形成した書籍となります。著者は後に「20代にしておきたい17のこと」など〇代にしておきたいシリーズを作った本田健さんです。

本書は、アメリカの大富豪ゲラー氏が、成功を夢見る日本の青年ケンに授ける「お金と人生の知恵」を物語形式で描いたものです。単なるお金儲けのノウハウ本ではありません。私たちが日々向き合っている「仕事」や「対人関係」に直結する、本質的なビジネスの心得が詰まっています。短期的にお金を稼ぎたい方向けではないのでご注意ください。



本書から一部抜粋します。
『花が好きな花屋と、儲けてやろうと思っている花屋がいるとしよう。花屋で金儲けをしようという人は、1本あたりの原価とか、客単価とか経費とかばかり考える。花が好きな店の主人は、自分の大好きな花で、お客さんをどのように喜ばせようかと考えている。』

さて、皆さんはどのような検討をしますか？ちなみに20代の私は花が好きな花屋を100%支持していましたが、30代の私は2つの花屋の中間にいます。正直年齢や経験、立場などで選ぶポジションは違ってくると思いますが、この本の秀逸なところは1冊1,000円以下の料金だけで何度も今の自分を見つめ直すことができる点だと感じています。社会の構造がどれほど変わろうとも、自分らしく生き、価値を届け、信頼を築くという原則は不変です。本書が発売から20年を越えて、今なお色褪せないのは、それが流行のテクニックではなく、揺るぎない「人間心理と経済の本質」を突いているからではないでしょうか。氣になった方は、是非本書を手にとってください。今後の人生に影響を与えてくれるかもしれません。

(文責：一戸)

将軍の日 (中期5カ年経営計画作成セミナー)

『将軍の日』とは

戦国時代、将軍が戦場から離れた陣營で、戦局を見極め戦略・戦術を立てたように、経営者が日常業務から離れ電話も来客もない環境で、将来を見据え経営計画を作るセミナーです。社長を将軍にみたて、「将軍の日」と命名されました。

【受講料】
55,000円(税込)/名
2名様以降5,500円(税込)

お問い合わせ：めいわ税理士法人
027-361-5568 担当：森平



先行経営Tasseiを行いませんか！

先行経営 Tassei とはズバリ「経営者の描く目標を達成させること！」です。そして目標を達成させるためには「経営計画」が必要です。経営計画を立てても実現しないのは、計画とズレたことを把握したあとの行動が伴っていないから。計画とのズレを毎月見定め、修正行動に移す。この一番実践できない「修正行動」の部分を、実際に行っていくことが出来るのが「先行経営Tassei」なのです。と同時に、経営者の意識や行動が明らかに変化します。

【料金】月額 55,000円(税込)から

編集後記

7月の祝日といえば「海の日」です。内閣府によると、海の恩恵に感謝するとともに海洋国日本の繁栄を願う日だということです。

めいわ新聞

MEIWA SHINBUN
令和8年 7月号
第203号

高橋税経グループ

■めいわ税理士法人 TEL:027-361-5568

■群馬M&Aセンター TEL:027-364-8040 ■相続手続支援センター群馬 TEL:027-363-5959

〒370-0006 群馬県高崎市問屋町4-7-8 高橋税経ビル FAX:027-361-9591 URL:https://meiwa.tax E-mail:info@meiwa.tax



(屋上の太陽光発電と横山山)

所長挨拶

盛夏の候、皆さまにはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

取引相場のない株式、いわゆる一般的な中小企業の株式の評価方法の見直しが始まっています。この評価額によって、中小企業の事業承継時における相続税額が決まるわけですから、私達にとっても大きな問題です。

そもそもの見直しのきっかけとなったのは、令和6年11月の会計検査院による問題提起でした。

問題点として指摘されたのは

- ①類似業種比準価額と純資産価額の大幅な乖離(かいり)
- ②配当還元方式の還元率(10%)が時代遅れ
- ③評価格差を利用した租税回避スキームの横行

専門用語が並んでしまっして申し訳ないのですが、分かりやすく言えば、国税庁の定めた評価通達に従って評価した場合に、その評価方法によって大きな差が出てしまう事。古い通達なので今の事情に合っていない事。またそれらを利用して、脱税まがいの節税行為が行われている事。というような指摘だったのです。

このような会計検査院の指摘を受けて、国税庁は今年4月に「取引相場のない株式の評価に関する有識者会議」を設置して

議論をスタートさせました。その有識者として各界から選ばれた13名のうちの一人が、日本M&Aセンターの熊谷秀幸常務。日本M&Aセンターと私たちの事務所は、M&Aに関して業務提携している関係で、先日熊谷常務の話を直接聞くことができました。

何故、日本M&Aセンターの常務が、居並ぶ学者の中で有識者会議の委員として選ばれたのか。今までの中小企業の株式評価の計算方法の前提には、すぐにでも現金化できる上場企業の株式に対して換金性が著しく低いから評価を低くするというものがあります。現金化できない中小企業の株式に高い評価をするのはいかなるものか、という考え方が、特に類似業種比準価額方式の計算方法にうかがえます。

ところが今や、中小企業のM&Aは決して珍しいものではなくなりました。会社の内容が如何によっても、M&Aで自社株を譲渡することによって大金を得ることも珍しくなくなってきています。そしてこの金額は、国税庁が相続税の計算のために定めた評価通達によるものとはまったく異なるものなのです。

有識者会議の議論の結果は新通達に反映され、年末に発表される税制改正大綱に盛り込まれることになるでしょう。議論の行方を追うと同時に、今のうちに出来ることを考えておくことも必要となるでしょう。

梅雨が明ければ本格的な暑さが到来します。例年以上に暑くなるという予報も出ています。皆さまには十分にこ自愛いただき、毎日をお元気に過ごされますよう心からお祈り申し上げます。

Contents

- P1 所長挨拶・目次
P2 税務トピックス

- P3 職場の教養
P4 読書感想文・将軍の日・編集後記

めいわ税理士法人 ～税務TOPICS～

【給付付き税額控除】

手取り増と働き控え解消に向けた原案の内容とは？

政府の「社会保障国民会議」は、中低所得者の負担軽減を目指す「給付付き税額控除」の原案を示しました。

この制度は、諸外国と比べて税や社会保険料の負担が重い日本の現役世代の負担を和らげ、

いわゆる「年収の壁」による働き控えを解消し、働けば働くほど手取りが増える仕組みを目指すものです。

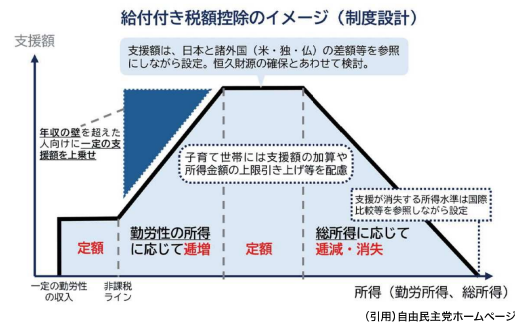
手取りを増やす段階的な支援策

今回示された原案における最大の特徴は、個人の所得に応じて支援額を段階的に変化させる制度設計です。

具体的には、まず非課税ライン以下の層に定額を給付し、社会保険料等の負担が発生する「年収の壁」を超えた層には一定額を上乗せする措置を講じることが検討されています。

支援対象は、一定の勤労所得がある単身者や自営業、フリーランス、さらには現役世代と同程度の負担がある高齢者まで幅広く設定されています。

また、子育て世帯には子供の数に応じた加算や所得上限の引き上げが検討されるなど、多角的な配慮も盛り込まれています。



「給付」に一本化する方針へ

もう一つの重要な方針として、「給付」に一本化する案が示されました。

当初は税額控除と現金給付を組み合わせる制度なども検討されていましたが、制度の複雑化による事務負担の増加や、実施までのスピード感を追求するために、所得に連動した給付のみを前提とする方法が提示されました。

また、所得見込みと確定時の「2段階での給付」も行わない方向で検討が進められています。

今回の原案は、「低所得者ほど負担が重い」という日本の現状を改善しようとするものです。今後は、恒久的な財源の確保とバランスを取りながら、制度の詳細が詰められることになります。

実際に私たちの生活がどのように底上げされるのか、今後の議論の進展が注目されます。



朝礼にて ～職場の教養～

毎日の朝礼で、一般社団法人倫理研究所の「職場の教養」を輪読し、感想を述べています。その感想で、良かったものを紹介致します。

5/15(金) 受け継がれてきた伝統

京都の三大祭りの一つに、五月に行われる葵祭（賀茂祭）があります。起源は約千四百年前にさかのぼるといわれ、毎年多くの観光客が訪れる祭りです。

葵祭は日本最古の祭りの一つとされ、上賀茂神社と下鴨神社の例祭にあたります。もとは五穀豊穡を祈る神事として始まり、平安時代にはもっとも重要な祭りとして認識されるようになりました。

当日は、平安装束をまとった約五百名の参列者が、京都御所から下鴨神社を通り、上賀茂神社までの約八キロの道のりを練り歩きます。その優雅で厳かな行列は、まさに王朝絵巻の世界を体現するものです。

葵祭は、日本の伝統文化と美意識を如実に示す祭礼です。神々への敬意や自然との調和の心は、私たちが忘れがちな価値観を思い出させてくれます。

私たちは日々、当たり前のように過ごしていないでしょうか。家族であれば祖先からの命の繋がりがあり、会社においては創業者や諸先輩の努力によって現在に繋がっています。あらためて身近なものへの感謝を深めたいものです。

今日の心がけ 伝統に触れ美意識を感じとりましょう

先日、映画「国宝」を観てきました。その映画は上映時間が3時間もある大作で主人公の「立花喜久雄」がやくざの世界から歌舞伎の女形となり「人間国宝」を目指す50年の軌跡を描いた作品でした（実話でないですが）。

初めて歌舞伎の世界を映画でみたのですが、正直、歌舞伎の美しさよりもその世界の怖さを感じました。歌舞伎という伝統を受け継がせるために、主人公の喜久雄を引き取った花井半二郎は自分の本当の息子を捨ててまで、喜久雄を跡取りに選ぶその歌舞伎への執着心や、自分が倒れるまで舞台上に立ち続けるその執念は本当に驚かされました。そして、主人公の喜久雄がまた「人間国宝」になるために、神様でなく悪魔にお願いするほど、ただただ歌舞伎という世界の頂点を目指すためにすべてを捨てなければならなかったその生き様は、とても強烈な印象でした。

この映画では、伝統を受け継がせる人、受け継いでいく人、それぞれ思いや気持ちは違いましたが、伝承させていくことは大事なことだと思います。伝統文化をしっかりと受け継がせることができれば、それは昔話。史実となってしまい、時に事実と異なる方向へ歪んでしまう可能性もあります。

今ある伝統文化を実感できるのは、並々ならぬ努力で受け継いでくれた人たちのおかげです。あらためて感謝したいです。



（文責：荒川）